

令和元年度(2019年度)

管理事業名	市庁舎管理事業				総合計画の 体系	大綱 — 政策 — 施策 —	—			
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	2	総務費	(項)	1	総務管理費	(目)	1	一般管理費
部局名	総務部	予算執行所属	総務室							
予算大事業名 市庁舎管理事業 一般事務事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名									
事業の目的と概要										
【目的】 吹田市役所本庁舎の秩序を維持し、来庁者や職員の財産を守り、安全を確保するとともに、公務を適正に執行する。										
【概要】 庁舎管理事業(本庁舎施設の改修工事・設備の更新工事等)に関すること、本庁舎内の秩序の維持及び安全確保を行うこと。										

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
庁舎電力使用量	kwh	2,694,121	2,916,002	2,796,806	吹田市役所エコオフィスプランに基づき、前年度比1%減の使用量を成果目標とします。
成果の説明	照明の間引きや節電の呼びかけを実施したことにより、エコオフィスプランに基づく電力使用量削減の目標を達成することができました。空気調和機につきましては、一般的に経年による能力の低下が発生することから、定期的に保守点検、オーバーホールを実施することにより効率的な熱エネルギー運用に努めております。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書 (単位:千円)

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	138,013	150,256	212,379	62,122
経常収入 小計(a)	138,013	150,256	212,379	62,122
給与関係費	116,041	88,459	87,650	△809
物件費	275,851	244,202	242,403	△1,799
維持補修費	28,488	20,923	8,628	△12,295
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	3,016	1,257	1,269	12
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	101,103	98,937	99,159	222
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	7,519	5,224	5,270	46
退職手当引当金繰入額	27,146	△22,625	1,277	23,902
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	559,165	436,378	445,657	9,279
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△421,152	△286,122	△233,278	52,844
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△421,152	△286,122	△233,278	52,844
一般財源充当額	350,853	221,017	151,297	△69,720
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△70,299	△65,105	△81,981	△16,876

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入(その他)	収益事業配分金 193,377千円 (+67,073千円)
物件費	委託料(警備業務等) 133,895千円 (+8,375千円) 需用費(光熱水費等) 86,248千円 (△5,737千円)
維持補修費	建物等修繕料等 8,628千円 (△12,295千円)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	138,013	150,256	212,368	62,112
行政サービス活動支出	437,041	367,939	349,813	△18,126
行政サービス活動収支差額	△299,028	△217,683	△137,445	80,238
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	51,825	3,334	13,852	10,518
投資活動収支差額	△51,825	△3,334	△13,852	△10,518
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△350,853	△221,017	△151,297	69,720
一般財源充当額	350,853	221,017	151,297	△69,720
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	特徴的な事項
(行政サービス活動収入) 収益事業配分金 193,377千円 (+67,073千円)	
(行政サービス活動支出) 光熱水費等の需用費 86,248千円 (△5,737千円)	

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
1日あたりのコスト	平成29年度	365日	1,531,959円	1日あたり1,220,978円のコストがかかっています。
	平成30年度	365日	1,195,557円	
	令和元年度	365日	1,220,978円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	5,224	5,270	46
未収金	-	11	11	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	5,224	5,270	46
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	2,341,292	2,255,985	△85,307	その他流動負債	-	-	-
土地	1,004,532	1,004,532	-	固定負債	53,177	49,817	△3,361
建物・工作物	1,336,760	1,251,453	△85,307	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	53,177	49,817	△3,361
無形固定資産	500	500	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	58,402	55,087	△3,315
建物・工作物	-	-	-	純資産	2,283,390	2,201,409	△81,981
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	0	0	-
重要物品	0	0	-	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	2,341,792	2,256,496	△85,296
資産の部合計	2,341,792	2,256,496	△85,296	負債及び純資産の部合計	2,341,792	2,256,496	△85,296

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

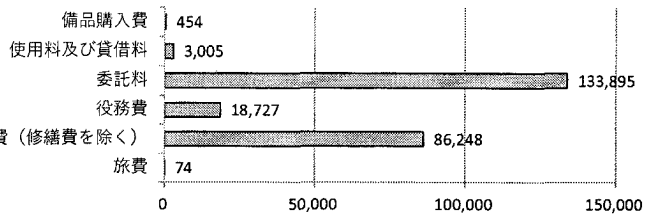
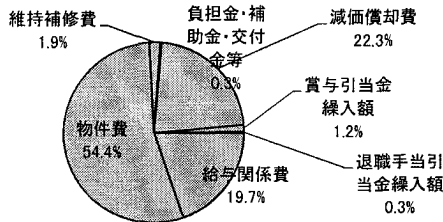
事業従事人数	常勤・再任用		非常勤 月平均	臨時雇員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数
	月平均	月平均			
8人	8人	10人			
給与関係費等	66,547千円	27,651千円			合計(千円) 94,198
内、時間外勤務手当	2,573千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物工作物	市庁舎仮設棟空調機更新工事などによる13,852千円の増、減価償却により99,159千円の減、差額 △85,307千円

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市庁舎
取得年月日	昭和39年(1964年)4月ほか
建物・工作物の取得価額	4,650,908 千円
建物・工作物の減価償却累計額	3,399,455 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)		差 B-A
		平成29年度	平成30年度 A	
施設維持補修費比率		0.6	0.5	0.2
施設老朽化比率		69.1	71.2	73.1
受益者負担比率		-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-
一般財源充当比率		71.8	59.5	41.6
経常費用対公共資産比率		12.1	9.4	9.6

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、物件費242,403千円(54.4%)、給与関係費87,650千円(19.7%)、減価償却費99,159千円(22.3%)、維持補修費8,628千円(1.9%)、賞与引当金繰入額5,270千円(1.18%)、負担金・補助金・交付金等1,269千円(0.29%)となっています。物件費の内訳は133,895千円が警備業務等の委託料、86,248千円が光熱水費等の需用費、18,727千円が通信運搬費等の役務費、3,005千円がコピー使用料等の使用料及び賃借料、454千円が備品購入費、74千円が旅費となっております。減価償却により資産(建物)が減少しています。老朽化比率は73.1%で市保有施設全体の老朽化比率57.0%と比較しましたら、16.1ポイント老朽化が進行している施設です。維持補修費比率は、0.2%となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

吹田市役所本庁舎については、昭和39年(1964年)3月に低層棟が竣工して以来、高層棟、中層棟、仮設棟と建設されましたが、低層棟につきましては、竣工から50年以上が経過しています。平成11年(1999年)度に約8,800万円をかけて耐震改修、平成21年(2009年)度に約3,700万円をかけて中層棟の外壁工事を実施しましたが、老朽化比率73.1%からも推察できるように、経年劣化が原因による修繕(空調設備の修繕やトイレの排水管の修繕等)が多発しております。今後も限られた予算の中で経年劣化が原因による修繕と突発的に起こる災害による修繕を緊急度・重要度の高いものから速やかに効率的に行っていく必要があります。このような状況の中、本市の今後の普通建設事業や財政状況も鑑み、本庁舎建替についてはしばらくの期間を要することから、庁舎の長寿命化を図るために計画的な維持保全を実施していくことが必要です。また、自動販売機等の設置使用料等を徴収するとともに、照明の間引きなど積極的に節エネに取り組むことにより歳出削減に努めておりますが、今後も設備等の省エネルギー化改修を図るなど、本庁舎運営の更なる効率化に努めてまいります。本庁舎は、市政の拠点であり、非常時の防災拠点となるなど、柔軟かつ効率的な管理運営を行う必要があります。現在は、常勤職員と会計年度任用職員の体制と警備業務等一部の業務を委託することにより、365日管理しており、引き続き現行の体制を維持していく必要があると考えておりますが、他市の庁舎管理の状況も比較検証することも必要と認識しております。